◆優良賞◆

給食がない夏休み

松原小学校 六年

森 文花

私は、学校の給食が大好きだ。九月から中学校でも給食が始まると聞いた。来年、中学校に入学した後も給食が食べられるのを楽しみにしている。

しかし、夏休みは給食がない。夏休みは母が毎朝、「給食はありがたいね。毎日お昼ご飯を作るのは本当に大変。」と言いながら私のお昼ご飯の準備をしてくれている。

夏休みが始まるころ、テレビのニュースで「子どもの貧困」の特集をしていた。困きゆう世帯などで給食がなくなる夏休みは、親がお昼ご飯を作る時間がなかったり、食材を買うお金がないという理由でお昼ご飯が準備できず、一日二食以下になってしまう子どもがいるという問題を取り上げていた。私はそのニュースを見て、「お昼ご飯を作ることが大変」というだけでなく、「お昼ご飯を食べることができない子どもが日本にもいる」ということを知った。また、困きゆう世帯の約六割が夏休みの短縮やはい止を求めているそうだ。私の友達も夏休みを楽しみにしていたので、そんな声があることにおどろいた。

夏休みの役割を調べると、ひ暑のため、自主的に学習に取り組むためという役割が考えられることが分かった。私の通う学校では、一部の教室のぞいで冷房が取り付けられているため、ひ暑のための休みは今あまり必要ないのかもしれない。また、お昼ご飯を食べることができずおなか

空いている中で、自主的に学習するというのは難しいと思う。だとすると、夏休みは本当に一ヶ月以上も必要なのか疑問に思うようになった。

しかし、私はだからといって夏休みをはい止にするのも残念だなと思う。夏休みには学校がある時にはできないことをする人もいるからだ。例えば、学校がある時には会いに行けない遠くの親せきに会いに行く人もいるだろう。また、親の休みの日と学校が休みの日が合わない家は、夏休みが家族で過ごす大事な時間になっている場合もあると思う。そこで、私は夏休みを今の半分程度に短縮するのがよいと思う。

もし、夏休みを短縮した場合、また新しい問題が発生する。それは、今より授業時間が多くなることだ。しかし、その授業時間はきつと有効に使えると思う。例えば、私は算数が苦手で、難しい問題が解けるようになる前に次の単元に進んでしまう時がある。もし、授業の時間が増えれば、難しい問題を解く時間を長く取ることができる。また、夏休みの役割にあった自主的な学習の時間に学校で取り組むことができるかもしれない。

私は夏休みも好きだ。しかし、夏休みを短縮することで学校で給食が食べられる日が増えて、お昼ご飯を食べることができない子どもが少しでも減るのであれば、夏休みを短縮してもよいのではないかと思う。